

青森出身の棟方志功、愛知には縁もゆかりもなかったのでしょうか？いえいえ、そんなことはありません。愛知県は新城市、鳳来寺山の山頂のほど近くにたたずむ鳳来寺、このお寺の梵鐘は、棟方のデザインによるものなのです。



▲遠くに見えているのが鐘楼です。

鳳来寺は、愛知県の県鳥で「声の仏法僧」の異名を持つコノハズクで有名な名刹で、ご本尊は薬師如来。梵鐘には、その薬師如来の脇侍である日光・月光菩薩と、薬師如来を守る十二神将の姿が彫られています。

鐘楼は普段は一般公開していません(毎年暮れの「鳳来寺除夜の鐘つき」のときだけ、上がることができるそうです)が、今回は棟方展の調査として特別にお願いをして、鐘を間近で見せていただきました。



▲鐘楼。普段は扉が閉まっています。



▲ご本尊の薬師如来を表す梵字。



▲十二神将から二将をアップ。棟方らしい描写です。



▲ちゃんと志功の名前も彫られています。

そしてもう一つ、棟方と愛知との大切なつながりがあります。

棟方は1936年に、初めての試みとして板画で絵巻を制作しています。《大和し美し》というこの絵巻作品は、佐藤一英(いちえい)という詩人による同題の詩を彫ったものです。棟方は佐藤の詩に惚れ込んで板画化の了解を得て、国画会展に出品、それをきっかけに柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司といった民藝運動の主要なメンバーたちと知り合うこととなります。

そんな棟方の出世作とも言える《大和し美し》の詩を著した佐藤一英は、実は愛知県一宮市の出身なのです。さすがに梵鐘はお借りして展示することはできませんが、こちらの《大和し美し》は出品されますので、楽しみに。

「棟方志功 祈りと旅」展は7月9日から。

(K.S.)